

新しい将来ビジョンの検討の進め方（案）

1 趣旨

21 世紀初頭の兵庫のめざす将来像を示し、中長期の県政の指針ともなっている「21 世紀兵庫長期ビジョン」（2001 年策定、2011 年改訂）の想定年次（2020 年頃）が到来した。ビジョン策定から 20 年、改訂から 10 年近い時が経つ。世界も日本も大きく変化する中であって、今後の兵庫づくりの方向性を県民と共に考え直すため、現行ビジョンに代わる新しい将来ビジョンの策定に向けて検討を進める。

2 検討に当たっての展望年次

当面、一世代後の概ね 30 年後の 2050 年を「展望年次」として検討を進める。なお、現行ビジョンの「想定年次」に相当する新ビジョンの目標年次の設定については今後検討する。

（参考）

現行ビジョンでは、将来を考えるために見通しておく時期（概ね 30 年後）を「展望年次」、ビジョン実現に向けた取組の時期（概ね 10～15 年後）を「想定年次」としている。

- ・当初（2001 年 02 月）[展望年次] 2030 年頃 [想定年次] 2010～15 年頃
- ・改訂（2011 年 12 月）[展望年次] 2040 年頃 [想定年次] 2020 年頃

3 想定する新ビジョンの姿

(1) 新ビジョンの構成

現行ビジョンでは、4 つの社会像からなる「全県ビジョン」に加え、共通の特性を有する地域ごとに県民が主体となって地域の将来像と行動目標を示す「地域ビジョン」を策定している。新ビジョンでも、現行ビジョン同様、全県ビジョンと地域ビジョンを策定する。

(2) 新全県ビジョンの性格

新地域ビジョンの大枠ともなる県全体の骨太な将来像を示すもの

《新全県ビジョンに期待される性格》

- ・出発点として、人口減少等の社会変化の趨勢をもとに自然体の兵庫の将来像を示すこと
- ・県民の価値観や生活様式の変化の行方を見通し、選択可能な未来として将来像を示すこと
- ・予測困難な未来に対して、県民が共有できる「なりたい姿（理想像）」を骨太に示すこと

(3) 新地域ビジョンの性格

共通の特性を有する地域ごとの将来像と行動目標を示すもの

《新地域ビジョンに期待される性格》

- ・人口減少等の社会変化の様相を地域の特性に合わせて分かりやすく「見える化」すること
- ・住民が共有できる「なりたい姿」を大胆に描き、中長期的な地域づくりの方向性を示すこと

《新地域ビジョンの策定単位》

- ・新地域ビジョンは原則として県民局・県民センター単位に策定する。①神戸、②阪神、③東播磨、④北播磨、⑤中播磨、⑥西播磨、⑦但馬、⑧丹波、⑨淡路
- ※県民局・県民センターを数年内に統合予定の阪神南・阪神北は南北を合わせた「阪神」の単位で策定

4 新地域ビジョン策定に向けた流れ

県民との意見交換や全県ビジョンの骨子案を踏まえ、策定主体である検討委員会において新地域ビジョンを策定する。

【県民との意見交換】

- ② ヒアリング調査
- ③ ビジョンを語る会
- ④ 地域デザイン会議
- ⑤ 未来フォーラム
- ⑥ 地域ビジョン委員会総会
- ⑦ ビジョン出前講座

【全県ビジョンの骨子案提示】

※県ビジョン課からR2年12月頃

【策定主体】

- ① 検討委員会
阪神南県民センター
阪神北県民局

新地域
ビジョンの
策定